



大崎市 農業委員会 だより

【第22号】

平成31年1月1日発行

編集・発行

大崎市農業委員会

〒989-6117

宮城県大崎市古川旭四丁目1番1号

TEL 0229-21-0577

FAX 0229-22-8045

e-mail: nougyo@city.osaki.miyagi.jp

迎春



三本木ひまわり園で行われた『もちつき会』

農地等の利用の最適化に向けて

大崎市農業委員会 会長 鈴木 淳也

新年明けましておめでとうございます。
皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、旧年中は大崎市農業委員会の活動に對しまして特段のご協力とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。さて、昨年は西日本豪雨や北海道胆振東部地震など自然災害の多い年でありました。稲作においては、春から夏にかけて連日好天に恵まれ豊作が予想されたものの、秋から長雨や日照不足が続き作柄が心配されましたが、米質は良好で味も良く安堵いたしました。

昨年、大崎耕土は、国際連合食料農業機関（FAO）から稲作水田地帯で初めて世界農業遺産に認証されました。この大崎耕土の保全と発展に、農業委員会としても期待しているところであります。

大崎市農業委員会は、改正農業委員会法により一昨年七月に新体制に移行し今年で二年目となりました。一層、農業委員・農地利用最適化推進委員の連携を強化し、「農地と人」対策を担う組織として、農地等の利用の最適化の施策を推進するため、農家への訪問に加えて地域の話し合い等に積極的に参加し、農地の貸付、借受希望者の意向を把握してまいります。

市民皆様の今後より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。今年一年が皆様にとりまして素晴らしい年となりまして、すよう祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



第3回宮城県農業委員会大会で
議案提案をする鈴木会長

大崎市長へ農業振興策に関する政策提案書を提出



大崎市農業委員会は、農業委員・農地利用最適化推進委員を始め、担い手との座談会や一日女性農業委員会でいただいた意見を集約し、昨年十月二十五日「大崎市長に対する政策提案」として次の七項目を、大崎市長に提出いたしました。

①農地中間管理機構との連携、強化②農地の有効利用・遊休農地解消対策③新規就農者の確保・担い手の育成対策④女性農業者の活躍できる環境づくり⑤農業・農村の6次産業化⑥有害鳥獣駆除対策⑦その他（共同乾燥利用施設の整備、食育と地産地消の推進）

農地転用研修会を開催

健全な農地の維持と有効活用を図るため、今後、農地パトロールや現地調査を行う際、当該農地の所有者や、耕作者へ指導を行うほか、無断転用についても併せて指導を行ってまいります。



農地部会委員及び農地利用最適化推進委員の合同により昨年十一月十六日に、農地転用に関する事業計画や立地基準等の要件、周辺農地等への影響などについて研修するため、転用実施箇所の実態調査と検討会の農地転用研修会を開催しました。

水稻作況調査を実施

大崎市農業委員会は、昨年の九月十二日に大崎管内各地域毎の水稲作況の実態を把握するための水稲作況調査を、圃場九ヶ所（内直播圃場一ヶ所）について、刈り取り前のもみの実り具合を確かめる「検見」という方法で、農政部会所属委員など十二名が実施しました。

豊作が期待されましたが、思った程収量が上がらない予想結果となりました。



農業委員会農業行政視察研修報告

武田 俊美 委員

今回は秋田県方面での研修で、大潟村にある「株式会社あきたこまち生産者協会」において、お米の加工食品の開発・営業活動の取り組みについての研修をしたことが一番心に残った。

国策の干拓として、食料増産を志し全国から大潟村に入植した当時の思いが次世代に受け継がれ、きちんと起立して挨拶して迎えてくれる従業員の対応は、会社の経営理念や開拓者の反骨精神がしっかりと浸透しているように感じられた。

お米のオンリーワン企業を目指し、現在の先駆けとなる産地直送を始め、生産から販売まで一貫して自社で行い、常に消費者の目線に立った取り組みが行なわれていた。お米の可能性を求めて、無洗米などの生産・販売のほか、お米の加工食品の開発にも取り組み、災害時に備えられる工夫や、最近ではグルテンフリー食品の開発など、独自にあらゆる商品アイテムを生み出し販路を拡大させてきた経緯は、大変参考となるものとなった。



主食の米へのこだわりと行政との情報共有などは、農業法人の強みを生かした取り組みに見えた。特に国の補助金を、普通の農業者にはあまり考えにくい方法で利用するなど、今後の大崎市での取り組みに生かされる研修であった。

第二回一日女性農業委員会開催

高橋 英理子 委員

平成三十年十一月十九日に、第二回一日女性農業委員会が行われました。

大崎市内各地域から推薦された農業・農産加工に関わる女性、管内の農業高校の女子生徒、合わせて二十四名の参加をいただきました。

大崎市農業委員会憲章唱和の後、農政部長から、農業委員・農地利用最適化推進委員・認定農業者・一日女性農業委員からの意見や要望をまとめた「大崎市長に対する政策提案」についての説明の後、「健康と癒しを届けたい」と題した、スカイラーク・アワノ代表 栗野敏夫氏の講演が行われました。

大葉生産農家として大葉ドレッシングを製造販売している「シソ王子」こと栗野さんの、日頃の農業や地域での活動のほか、農業に対する



思いも含めてお話いただきました。その人脈の広さや情熱に、皆さん熱心に聞き入っていました。

グループワークでは、後継者問題をはじめ、米価が安く機械や資材の支払いが大変だ、国は農地の集団化にばかり力や補助事業を行い、小さな農家には何の支援もない、などの意見がありました。大農家や若手だけでなく、小規模に農産加工をしている人達にも、出品できる所が欲しいなど、様々な意見が出されました。深刻なイノシシ被害に対しては、電柵や駆除だけでなく、イノシシの生態を研究し、里に出ないようにするよう考えなければならぬのでは、という意見

もありました。

GAPについてや農業次世代人材投資事業についての質問もあり、皆さんの農業に対する意識の高さがうかがわれました。皆さんの真剣な思いや意見を、今後の市政への要望に活かしていきたいと思えます。

一日女性農業委員会終了後、南郷高校の生徒さんから熊本大学と二年かけて共同で研究されている「マイクロバブル水」の研究成果の発表がありました。植物での研究は今後農作物にも大いに利用が期待をされ、高額な資材を安価に利用できるような普及活動にも力を入れるとの事で頼もしい限りです。

短い時間ではありましたが、盛りだくさんの有意義な一日女性農業委員会となりました。今後も女性の意見が農政に反映されるよう、皆さんの活躍を期待しております。



第3回農業委員会大会で受賞

昨年、11月21日に開催された第3回宮城県農業委員会大会において、長年の活動実績が認められ大崎市農業委員会から農業委員2名と、元農業委員1名が受賞されました。

受賞者

【宮城県知事感謝状】小関 芳樹氏（農業委員）

小原 勉氏（農業委員）

【宮城県農業会議会長表彰】伊藤 新太郎氏（元農業委員）



左から小原勉委員、小関芳樹委員、伊藤新太郎元委員

地区座談会を開催

大崎市農業委員会では、農協や認定農業者連絡協議会などと連携し、農業事情の把握や意見集約、農政の情報提供の場として各地域において農業委員・農地利用最適化推進委員が中心となり、年1回地区座談会を開催しています。

地区座談会でいただいたご意見やご要望は、「大崎市長に対する政策提案」に反映させ、大崎市長に提出しています。



岩出山地域

よっていがいん!



最近は大変嬉しく思っています。最近直売の店が多いのですが、他の店には負けない「地物、甘い、安心」をモットーに、衛生面にも気をつけて袋をかけ販売しています。ぜひ多くの方にご利用していただければと思います。張っておりますので皆さんのお越しをお待ちしております。

営業情報

場所／大崎市古川新田字中宿43
 期間／8月～11月まで
 時間／午前6時～午後6時
 連絡先／なしばたけ
 代表 門脇 妙子
 ☎26-4063

古川地域

なしばたけ

取材 菅原 清一 委員



国道四十七号線古川インターを過ぎ鳴子方面に進み最初の信号を左折、市道新田中央線の川沿いにのぼりが立っているのが我が家の無人の直売所です。

我が家は通称「なしばたけ」と呼ばれ、大正時代よりぶどうと梨を作ってきたと祖父より聞いております。私の代になってからぶどうを止めて梨と桃に切り替えることにしました。地域などで販売はしていましたが、梨の木が成木になるにつれて手がまわらなくなり、平成十四年頃に無人の直売所を作りました。あまり資金をかけないよう昔、育苗器として使用した小屋を再利用し、自分たちで直売所を作ることができました。今では地元や、遠方の方たちにも利用していただき、買いやすさもあって皆さんに喜んでもらえて大変嬉しく思っています。

最近直売の店が多いのですが、他の店には負けない「地物、甘い、安心」をモットーに、衛生面にも気をつけて袋をかけ販売しています。ぜひ多くの方に



チャレンジ農業女子

取材 小野寺 正晃 委員



古川地域 佐々木 直美 さん

Q、農業に携わるきっかけは?

A、子育ての合間に、「時間が調整出来て、お小遣い稼ぎになる仕事を、何かしたいなあ」と思いから、自宅のハウスで野菜栽培をしていることから、そこで何か栽培できないかと思い、初めにトマト栽培にチャレンジしました。

Q、主に栽培している作物は?

A、現在は、中玉トマト、ホウレンソウ、レタスを主に栽培しています。

Q、今までで、苦労した事は?

A、収穫したトマトを家族に食べってもらうと、旦那さんに、「皮も厚いし、甘くない」と言われ、薄皮で甘いトマトができる様に、試行錯誤しました。今では、薄皮で甘いトマトを作

る事ができ、家族や知人に好評です。

また、近年の天候不順等で作物の定植や収穫が遅くなり、思う様に栽培できないのが大変でした。

Q、これからチャレンジしたい事は?

A、トマトを使って「トマトジュース」や「ケチャップ」などの加工食品を作ってみたいです。

Q、今後の夢は?

A、同じ境遇の立場の、ママさん達が寄り合って、「子育て合間の仕事」として、気軽に仕事ができる場所を作りたいです。

また、一緒に働けるママさん達が増えたら、多種類の作物を栽培してみたいです。

Q、農業を続けるために必要な事は?

A、専業主婦も、子育てや家事等で日々大変ですが、気軽に時間を調整できて働ける所があれば、主婦でも農業を続けられるのではないかと思います。

また、農村地域に於いて深刻化されている担い手不足の問題にも、取組み方や行政の仕組み次第では、その解消の力になれるのではないかと思います。

おうほの
はなし

雪中田植え

取材 高橋 英理子 委員



●プログラム

神社参詣・雪中田植え・かんじき体験・あわぼ作り・餅つき・豊作祈願なおらい（2月末開催予定）

●お問合せ

*担当 高橋 一幸
☎090-4888-3372



鳴子温泉鬼首地区内の最北の集落では、二月の小正月の前日は、「女の年取り」と呼び、五十年ほど前まで各家庭で盛んに行なわれていた雪中田植えという伝統行事がありました。

一度は途絶えたこの行事、集落内外の人々との交流と地域起こしを目的に、軍沢、岩入、尾ヶ沢、寒湯の四つの集落の住民が、七年ほど前から宮城大学の協力を得て復活しました。餅つきやお煮つけなど、地元ならではの手料理を囲み、地元の人々と参加者が和やかに、伝統行事を楽しみながら行っています。

若い女性が雪中田植えをするのですが、集落には若手がいなため、宮城大学の女子大生や一般の方に参加していただいています。豊作を願い、代々大切に受け継がれてきた行事に参加、または見学してみたいという方は、お問合せください。



がんばる農業者

取材 佐々木 俊通 委員



古川地域 三浦 善幸 さん

今回は就農四年目、若手担い手の三浦善幸さんを紹介します。

農家の長男であったため、いずれは家業を継ぐと思っていた善幸さん。高校を卒業後、東京のスーパーに二年間、大衡村の直売所で二年間の研修期間を経て就農しました。就農にあたっては不安があつたものの当時の青年就農給付金制度を知り、このような制度があるのならと決意したそうです。

家族経営だが分業しており、親はトマト、キュウリ、メロンなど施設野菜と水田、善幸さんは、ネギやブロッコリーなどの露地野菜を担当しています。特にネギには力を入れており、二十アールから始めた面積を現在、百二十アールまで拡大し周年栽培に取り組んでいます。出荷は農協や直売所、また研修先でもあった東京のスーパーなど販路もさまざまです。

4Hクラブや農協青年部などの活動にも積極的に参加することで仲間を増やし、情報交換など通じて日々頑張っています。

取材の中で、「農作物の良し悪しは天候に左右される要素が大きく高品質の野菜を安定供給するためには、栽培技術や規模拡大をしたときの人手の問題と課題は多い。しかし、課題や考えることが多い分、やりがいのある仕事だ」と話してくれました。また、作業の機械化や自分の作った野菜のブランディングなど今後の展望なども語ってくれました。

熱意のある若手農業者、今後が楽しみです。

農地中間管理事業を活用しましょう！

事業活用のメリット

①出し手のメリット

- 公的機関が農地を預かるので安心です。
- 機構から直接賃借料を受け取ることができます。
- 契約期間満了後は、確実に農地が戻ります。
- 農地に関連した税制面での優遇措置が受けられます。

②受け手のメリット

- まとまりのある農地を借りることができ、農作業の効率化とコストダウンが可能となります。
- 農地の貸し手が複数いても、機構との契約だけで済みます。
- 賃借料の支払いは、口座振替で便利です。
- 農地中間管理事業と他事業とのパッケージ活用により、より一層の経営の効率化が図れます。

事業に関する詳細は、農業委員会事務局、農林振興課(各支所地域振興課) 又はJAの窓口にお問合せください。

わくわく農業体験!!

三本木ひまわり園

三本木地域

取材 笠原光子委員



よこやま かいり さん (5歳児・くり組)
小さいクラスのおともだちといっしょに、大きなさつまいもを見つけてたくさん土をほりました。

たかしま ここな さん (5歳児・くり組)
はたけで見つけたさつまいもは小さかったけど、やきいもにして食べるのがたのしみでした。

こいずみ あゆと さん (5歳児・かき組)
いっしょうけんめい土をほったら、大きくてかたいおいもがとれてうれしかったです。

はやさか きらら さん (5歳児・かき組)
おいもがなかなか見つけれなかったけど、下までほったらおいもをとることができてうれしかったです。



あべかわ ななと さん (5歳児・なし組)
みんなといもほりをして、大きくてれいおいもがとれたのがたのしかったです。

くろき まこ さん (5歳児・なし組)
おともだちと力を合わせて、おいもをほるのがたいへんだったけどたのしかったです。

三本木ひまわり園では、「生きる力」をもつ、心身ともにたくましく健康な子供の育成を目指し、栽培活動などの食に関する様々な体験を通した「食育」を推進しています。

○春…野菜の種まき・苗植え

○夏…夏野菜の収穫・梅干し作り

○秋…さつまいも掘り・やきいも会

○冬…豚汁作り・もちつき会

収穫した野菜は給食で味わっていますが、子供たちは自分たちで育てた野菜とあって、喜んで食べています。

子供たちの健やかな成長を願い、地域に根ざした保育施設として、今後も食育を推進していきたいと思っています。保護者のみなさまや地域のみなさまのご協力に感謝申し上げます。

大崎市三本木子育て支援総合施設ひまわり園 園長 今野 良

大崎市賃借料情報

平成29年10月から平成30年9月までに締結（公告）された農地の賃貸借における賃借料水準（10aあたり）は、以下の通りです。

大崎市農業委員会

平成30年12月15日

1. 田 の 部

締結(公告)された地域名			平均額	最高額	最低額	データ数
古川地域	基盤整備地域	現金	17,000円	25,000円	1,000円	893
		物納	—	—	—	—
	未整備地域	現金	11,900円	25,000円	1,000円	484
		物納	80kg	80kg	80kg	1
松山地域	基盤整備地域	現金	15,300円	19,000円	7,000円	57
		物納	—	—	—	—
	未整備地域	現金	10,400円	15,000円	6,000円	14
		物納	—	—	—	—
三本木地域	基盤整備地域	現金	16,200円	20,000円	10,000円	30
		物納	64kg	300kg	55kg	10
	未整備地域	現金	10,600円	20,000円	4,000円	117
		物納	60kg	179kg	55kg	46
鹿島台地域	基盤整備地域	現金	14,800円	19,000円	7,000円	592
		物納	60kg	60kg	60kg	14
	未整備地域	現金	12,500円	17,000円	1,300円	97
		物納	60kg	60kg	60kg	6
岩出山地域	基盤整備地域	現金	10,900円	18,000円	4,500円	79
		物納	60kg	60kg	60kg	12
	未整備地域	現金	8,300円	18,000円	3,000円	357
		物納	46kg	64kg	30kg	17
鳴子温泉地域	基盤整備地域	現金	—	—	—	—
		物納	—	—	—	—
	未整備地域	現金	10,700円	15,000円	10,000円	7
		物納	28kg	30kg	25kg	6
田尻地域	基盤整備地域	現金	15,600円	25,000円	12,000円	459
		物納	—	—	—	—
	未整備地域	現金	13,000円	25,000円	3,400円	334
		物納	109kg	120kg	90kg	11
(参考) 大崎市平均		現金	12,900円	—	—	3,520
		物納	61kg	—	—	123

2. 畑 の 部

締結(公告)された地域名			平均額	最高額	最低額	データ数
古川	地域		10,300円	20,000円	1,000円	27
松山	地域		—	—	—	—
三本木	地域		5,900円	10,000円	5,000円	11
鹿島台	地域		11,300円	15,000円	2,200円	19
岩出山	地域		4,900円	12,000円	1,000円	42
鳴子温泉	地域		5,400円	5,600円	3,000円	7
田尻	地域		5,000円	15,000円	1,000円	21
(参考) 大崎市平均			6,700円	—	—	127

※データ数は、集計に用いた筆数です。

※金額は算出結果を四捨五入し100円単位としています。 ※物納は算出結果を四捨五入しています。

農家のみなさんに役立つ 全国農業新聞

全国農業新聞は農業者の公的代表機関である農業委員会系統組織が農業者の立場に立って編集・発行している“農家のための情報紙”で紙面も充実しておりますので是非ご購読ください。

◎発行日 毎週金曜日

◎発行所 全国農業会議所

◎購読料 1か月700円

(年間8,400円:送料込)

お申し込み・お問い合わせは、

お近くの農業委員、農地利用最適化推進委員、農業委員会事務局(☎21-0577)までお願いします。

